

「アトピー性皮膚炎におけるサイトカインに関する研究」へのご協力のお願い

—平成13年4月1日～平成24年3月31日までに当科において皮膚生検を受けられた方へ—

研究機関名 岡山大学皮膚科

責任研究者 岡山大学病院 皮膚科 助教 森実真

分担研究者 岡山大学病院 皮膚科 助教 森実真

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻病態機構学講座皮膚科学分野

大学院生(医師) 水野佳寿子

1. 研究の意義と目的

ヒトの免疫機構において、サイトカインと呼ばれるタンパク質が重要な役割を果たしており、多くの種類が存在し様々な働きをすることが分かっています。サイトカインの一種である TSLP は主として皮膚の細胞から産生され、アトピー性皮膚炎や気管支喘息などのアレルギー疾患の誘発や増悪に大きく関与しているのではないかと考えられています。私たちはアトピー性皮膚炎や他の皮膚疾患における TSLP や TNF- α という他のサイトカインの発現と、アトピー性皮膚炎に対する治療が TSLP の発現に及ぼす影響について調べます。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

岡山大学病院の皮膚科で診療を行っているアトピー性皮膚炎、日光角化症、脂漏性角化症(しろうせいかくかしょう)、ボーエン病、尋常性疣贅(じんじょうせいゆうぜい)の患者さま 各10名ずつ

健常者 5人[そのうち本学の対象健常者5人 岡山大学病院皮膚科において悪性腫瘍(悪性黒色腫や有棘細胞癌、基底細胞癌など)に対して切除術を行った患者さま]

2) 調査期間：

平成24年11月27日から平成26年3月31日まで

3) 研究方法：

平成13年4月1日から平成24年3月31日までの間に当院において皮膚生検の検査を受けられて、アトピー性皮膚炎、日光角化症、脂漏性角化症、ボーエン病、尋常性疣贅、悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌と診断された患者さまで、研究者が診療情報をもとに検査で採取した皮膚の保存切片を用いて特定のサイトカインが存在するかを調べます。

4) 調査票等：

研究資料にはカルテから現病歴、既往歴、治療歴を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報には削除し匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

5) 情報の保護：

調査情報は岡山大学皮膚科内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、平成 26 年 3 月 31 日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。この期間中にお申出がなければご了解を得たものと判断させていただきます。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 皮膚科 医師

氏名：森実 真

電話：086-235-7282 ファックス：086-235-7283